

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所  
162-0805 東京都新宿区矢来町 65  
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175  
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

## 東南アジア宣教拠点構築に向けて

### — 東アジア聖公会協議会主教会報告 —

神戸教区主教 アンデレ 中村 豊

今年の主教会は、全土で聖公会信徒数が約300名不足のタイのバンコックのホテルで10月1日(水)から6日(月)まで開催され、一番東の日本・韓国から西のミャンマー、南はオーストラリアより20名の主教が集いました。

#### ○タイの聖公会事情

タイへの聖公会宣教はロンドン宣教社団(London Missionary Society)からの宣教師派遣によって1828年始められましたが、現在、バンコックを中心にチェンマイに1つ、北西部の山村に3、4の伝道拠点があります。7年前、マレーシアの聖公会から派遣されたイー・ティン・ワー司祭が宣教責任者となり、バンコックキリスト教会(聖公会)を中心に、宣教活動を展開しております。

バンコックキリスト教会では毎日曜日午前、英語聖餐式が執行されます。英語会衆のためのチャプレンはピーター・クック司祭で2年前より英国から招聘され、司牧者としての任を果たしております。午後は現地人のためのタイ語聖餐式が執行されており、イー・ティン・ワー司祭が司牧責任者です。5日の日曜日には主教たちもこの礼拝に出席、聖餐式において約30名が堅信礼を授かりました。按手を授かった人たちの多くは、母親の手一つで育てられた青少年だそうです。

タイの聖公会は、タイのNCCともいふべき政府公認のタイ・キリスト教会(The Church of Christ in Thailand・CCT)の傘下にあります。1934年に創立されたCCTはそれぞれの教派の歴史、伝統、教理、組織制度などを尊重しつつ超教派の活動を展開、他宗教との対話の窓口となり、教育、医療、福祉施設も運営しております。外国からの宣教師のほとんどはCCT附属タイ語学校で学び、各地に派遣されていきます。

CCTの他に1976年にタイ宣教師団(Evangelical Fellowship of Thailand・EFT)が立ち上がりました。これも政府が公認するプロテスタント教会の組織で、各教会の資産管理や法律問題

## □会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)  
および11月25日以降)

### 11月

- 13日(木) 教役者遺児教育基金・建築金融資金運営委員会(中止)
- 14日(金) 年金維持資金管理委員会
- 17日(月)~18日(火) 文書保管委員会  
翻訳小委員会
- 18日(火) プレ宣教協議会準備会
- 18日(火) ウィリアムズ主教記念基金  
運営小委員会(立教大学)
- 19日(水) 正義と平和・憲法プロジェクト
- 25日(火) 渉外主査会
- 25日(火) 宣教150年記念礼拝実行委員会
- 27日(木) 宣教協働者招聘委員会
- 27日(木) 常議員会

### 12月

- 4日(木) 青年委員会
- 5日(金) ウィリアムズ主教記念基金  
運営委員会(立教大学)
- 8日(月) 主事会議(10日から変更)
- 8日(月)~9日(火) 文書保管委員会  
翻訳小委員会
- 9日(火) 管区審判廷第1小審判廷事前会議
- 10日(水) 主事会議(8日に変更)
- 12日(金) 「主教会メッセージ」ドラフト  
部会
- 13日(土) 神学教理委員会
- 15日(月) 教区間協働担当デスク会議
- 16日(火) 正義と平和委員会
- 19日(金) 教役者給与調整デスク会議

### 2009年1月

- 7日(木) 主事会議
- 9日(金) 宣教150年記念礼拝実行委員会
- 11日(日)~12日(月) プレ宣教協議会  
実行委員会拡大会議(神田キリスト教会)
- 12日(月)~13日(火) 人権担当者の  
集い(牛込聖公会聖バルナバ教会)
- 15日(木) 憲法法規委員会

(次頁につづく)

を取り扱い、キリスト教宣教のためのビザもこの組織の認定によらなければ発給されません。

参加主教たちは会議中の一日、午前9時より午後6時までこの2つの施設を見学しましたが、7時間は渋滞の車のなかで過ごしました。交通網の未整備に加え、富裕層の増加により自家用車が移動手段となります。これが渋滞に拍車をかけているわけです。

### ○甚大な被害を受けたミャンマー聖公会

東アジア聖公会各教区の現状報告のなかで、特にマレーシア聖公会の教勢が上向きで、年間約1000名が新たに聖公会に加わり、昨年統計ではサバ教区の信徒数は約7万4千人、西マレーシアは約2万9千人です。フィリピン聖公会は2008年1月をもって米国聖公会からの財政支援が終了、2018年までに完全自給を目指しております。

ミャンマー聖公会では、軍事政権下、各地で仏教武装集団や民族武装集団が政府軍と小競り合いを起こしており、政情は極めて不安定です。そのあおりを受けた人たちが難民化し、聖公会のグループがタイ国境地帯で難民の救援活動を展開しております。加えて、先のサイクロンで南部海岸地帯の教会建物は全壊となり、ヤンゴン市内の教会の多くも屋根などが飛ばされ、現在復旧献金を呼びかけております。

### ○「聖公会カバナント」批准に向けて

東南アジア聖公会のジョン・チュー大主教は、「聖公会カバナント」について次のように述べました。

全聖公会管区に配布される「カバナント」の

(前頁より)

18日(日)～19日(月) 青年担当者会(牛込聖公会聖バルナバ教会)  
19日(月) ウィリアムズ主教記念基金  
基金委員会(立教)

#### <関係諸団体会議等>

12月2日(火) 日本キリスト教連合会常任委員会  
12月2日(火)～9日(火) IASCER (=The Inter-Anglican Standing Commission on Ecumenical Relations) 会議(京都) — 西原廉太司祭出席  
12月4日(木) 聖公会生野センター理事会

注解(コメンタリー) に対する応答を2009年3月9日までに受け取り、2009年5月開催の全聖公会中央協議会(ACC)の議を経て「聖公会カバナント」最終案ができあがり、全聖公会各管区・教区にこれが配布されます。これを受けて、教区会あるいは管区総会で批准するかどうかを決定します。管区が批准を拒否した場合でも教区が批准した場合、その教区は全聖公会の枝となります。カナダ聖公会の場合、ニュー・ウエストミンスター教区始め2、3の教区は同性婚の祝福式文の制定を画策しており、分裂が予測されます。

来年の主教会はカンボジアのプノンペンで開催されることが決定されました。タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム各国は聖公会にとって未開の地で、この地への宣教が本格的に開始されようとしております。そのためには当然人的・物的な支援が必要ですが、日本聖公会も何らかのかたちで宣教への協力が求められることでしょう。

## イエスの処方箋

管区事務所で働くようになってひとつ良かったことは、健康診断が受けられるようになったことです。今までは申し込んでもすでにいっぱいになっていて規定の検診が受けられないことが続いて

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤 牧人

いた。今年4年ぶりに検診を受けた。その結果はどうであるかはまだわからないが、検診を終え、帰りながらひとつのことを思い出した。

「イエスからいただいた処方箋」というのがあ

る。教会生活を営むとき、心に刻んでおきたいことのひとつではないかと思い、分かち合いたいと思った。

体調を悪くしたようなので、健康診断を受けたいと思ってイエスの診療所に行きました。検査の結果、私の体に具合の良くないところがあると診断され、自分でもそれを心から納得しました。

イエスはまず私の血圧を測りました。そして「慈愛」の血圧がとても低いと言いました。次に体温を測りました。「利己主義」(エゴイズム)の熱が高く、40度もありました。心電図の検査では、「愛」のバイパスが何本か必要だと言われました。なぜなら、いつの間にか「孤立」しているのです、心臓に「生きがい」と「希望」が十分に循環していないらしいのです。

次に歩行困難の症状で整形外科に回されました。実際に出会っている兄弟姉妹と「共に歩む」ことができなくなっているからです。確かに「虚栄」あるいは「自分の見栄」にいつも躓いています。

その後、近視が強いから眼科にも行くようにと言われました。本当に私の周りの人々を見るとき、その人の「否定的な部分」しか見えていません。

さらに耳鼻科にも行きました。イエスは今の私には「彼の声」が聞こえていないと診断しました。

イエスは優しい方なので診察は無料でしたから、私はお金を払わなくて済みました。ただ、次のような処方箋が施されました。

1. 毎朝起きたら、「感謝」の水をコップ一杯飲むこと。
2. 職場に入るとき、「安らぎ」をスプーンに一杯飲むこと。
3. 一時間ごとに、「忍耐」の錠剤と「謙遜」のカプセルを飲むこと。
4. 家に帰るとき、家族への「愛」の注射を受けること。
5. 寝る前に、「安らぎの良心」の錠剤を二錠飲むこと。

これは、ある神父さんがお書きになったものだと思います。私たちがこの世で共に生きていくとき、どうしても自己中心になりがちであるし、他人の否定的な部分を、また物事の否定的な部分に目が行き、そこに関心が向き、その結果、一步を踏み出せないでいることがあるのではないだろうか。また、踏み出さないことを肯定している姿があるのではないだろうか。そのような視点で生きているなら、確かに「前進する」ことに躊躇するのだろう。今のままでいいや、と。

各教会、教区、管区がそうならないように、健康診断を受け、イエスの処方箋に従って、信仰生活を過ごしたいものだと思う。日本聖公会という教会が、この世で意味あり続けるためにも。



## □主事会議

第57(定期)総会期第4回 11月5日(水)

〔主な協議事項〕

1. 改訂古今聖歌集試用版の処分に関して
2. 祈祷書に掲載されている年次移動祝斎日表に関して  
現祈祷書(第1版第1刷)の年次移動祝斎日表は2012年までのため、第2刷発行までは別表を作り、『管区事務所だより』

本文あるいは付録に載せることとする。

3. 礼拝音楽研修会の件  
開催費用の支出について確認。
4. 第23回外キ協全国協議会への代表派遣に関して  
〔2009年1月29日～30日、さいたま市、主題：宣教課題としての外国人住民基本法〕  
出席候補者について決定。

## 5. USPG への応答に関して

USPG 国際会議 (11月15日～23日、英国) に聖公会から提起する課題について

(1) 教役者給与の教区間格差、  
(2) 日本聖公会宣教協議会の開催、(3) 聖公会生野センターの拠点確保、(4) 浦安伝道所の拠点確保

## 6. NCC 国際わかちあい募金に関して

以下を次期の奉献先の候補として推薦する。

(1) パレスチナ子どもキャンペーン  
(2) 聖公会生野センター  
(3) カパティラン

7. 大斎克己献金国内伝道強化資金に関して  
(継続協議事項)

## 8. 日本聖公会以外への派遣委員の

報告に関しての報告会の具体化に関して派遣委員の報告の場として、人権担当者の集いに出席していただくこととした。

次回・次々回主事会議

12月8日(月)、2009年1月7日(水)

## □来訪者

・ グレゴリー・与子美氏 (10月31日)

## 2008年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	大町信也 沖田紀夫	大友正幸 (長) 遠藤淳治	藤井八郎 石塚正史
東北	聖職 信徒	八戸 功 (長) 阿部禧典	中山 茂 三宅 哲	越山健蔵 長井 淳
北関東	聖職 信徒	斎藤英樹 (長) 谷川 誠	小野寺 達 横川 浩	輿石 勇 菊池邦香
東京	聖職 信徒	大畑喜道 (長) 松田正人	山口千壽 山田益男	笹森田鶴 寺西裕子
横浜	聖職 信徒	三原一男 (長) 中林三平	長野 睦 宮崎道忠	河崎 望 佐藤尚敏
中部	聖職 信徒	渋澤一郎 (長) 徳山義章	市原信太郎 池住 圭	土井宏純 塚田一宣
京都	聖職 信徒	三浦恒久 (長) 三木清樹	宮嶋 眞 佐々木靖子	黒田 裕 川村寿一
大阪	聖職 信徒	岩城 聰 (長) 佐野信三	福田光宏 槻本邦夫	竹内信義 畑野めぐみ
神戸	聖職 信徒	芳我秀一 (長) 松田嘉彦	上原信幸 東 弘彦	小南 晃 飯田恵二
九州	聖職 信徒	濱生正直 (長) 蔵元英一	柴本孝夫 東 美香子	小林史明 細川眞二
沖縄	聖職 信徒	上原榮正 (長) 大倉信彦	高良孝太郎 新崎久美子	戸塚鉄也 並里 厚

11月中旬ロンドン近郊にて開催のUSPG 国際会議の打ち合わせのため

## 📖 出版物案内

・ 『日本聖公会法憲法規』 2008年第57  
(定期) 総会改正 価630円

## \* お知らせ

日本聖公会宣教150年記念礼拝の会場が変わりました。

会 場： 東京カテドラル聖マリア大聖堂 (カトリック関口教会)

東京都文京区関口3-16-15 2000人が入ることのできる会場です。

礼拝時間： 2009年9月23日 午後1時30分～

ともに感謝し、ともに祝い、ともにこぎ出そう

## 《人 事》

## 大阪


聖職候補生 パウロ井上進次 2008年10月19日 執事に按手される。  
 執事 パウロ井上進次 2008年10月19日付 西宮聖ペテロ教会における主日勤務を解き、  
 司祭ヨハネ奥康功のもと西宮聖ペテロ教会牧  
 師補に任命する。

## 管区

主教被選者 司祭 サムエル大西 修 2008年9月20日 主教に按手される。  
 主教 サムエル大西 修 2008年9月20日付 大阪教区主教に就任

## 《教会・施設》

稚内聖公会(北海道) 郵便物・FAX宛先 旭川聖マルコ教会  
 室蘭聖マタイ教会(北海道) 郵便物宛先・連絡先 藤井昭一さん方  
 050-0074 室蘭市中島町 1-38-5  
 中島コーポ 203 ☎/Fax 0143-44-4327

委員会の活動から 

## 《正義と平和委員会》

10月14日、正義と平和委員会は管区総会後の第1回会議を開き、今後の課題について話し合った。メンバーは、委員長の谷昌二沖縄教区主教を始め、聖職、信徒あわせて7名、それに管区総主事と宣教主事が陪席した。

会議では、現在日本社会が直面しており、教会の宣教課題と堅く結びついている諸問題について幅広く話し合い、これまで同委員会が取り組んできた以下のプロジェクトに継続して取り組むことが決定された。

## a. ジェンダープロジェクト

今総会期のジェンダープロジェクトは、2006年に開催した「第1回聖公会女性会議」で確認された15項目の目標を基本的姿勢にもち、その具体化のための一つのプロセスとして「神学校への出前ワークショップ」を実施したいと考えている。また、前期よりの懸案事項であるセクシュ

アル・ハラスメントのアンケート実施(人権担当・女性デスクと協働)、ニュースレターを通しての啓発活動も引き続き行い、ジェンダー課題の克服に取り組んでいきたい。

## b. 日韓協働プロジェクト

11月11日にプロジェクトの会合を開いた。今総会期が半年過ぎて、残り1年半の任期の中で日韓プロジェクトの果たすべきことを次のように議論した。

- 1) 大韓聖公会と今後の課題について来年1月に協議会を開催する。TOPIK(Toward Peace In Korea)の宣言文に対して、今回の総会が賛同決議をしたことを受けて、日本聖公会としてもその趣旨に沿った活動を、大韓聖公会と協力しながら展開する。その担当者を設ける。
- 2) 2004年日韓聖公会宣教協働20周年記念大会で出した共同声明書を大事にすること。その中で特に「社会宣教(社会正義・平和・人権・福祉)、教育などを担っている人たちの交流を推進する」というこれからの課題を

早急にプログラム化すること。ただし、「社会宣教」という言葉が日本聖公会ではなじみのない言葉であるので丁寧な解説が必要。

### c. 憲法プロジェクト

2007年1月12日に立ち上げられた当プロジェクトでは、今総会期も引き続き、緊急課題として日本国憲法、特に第九条を中心に改憲問題に取り組む。1年半後に迫った「日本国憲法の改正手続に関する法律」（通称「国民投票法」）施行を踏まえつつ、国内外への情報発信、各教区や活動団体などとの連携の強化に努めたい。

### d. 沖縄プロジェクト

（これまでは、総会決議に則って名称を「沖縄週間」として来たが「沖縄週間」以外の活動も視野に入れる事とし、プロジェクトに変更。）

2006年第56総会決議である「沖縄週間の設置」に基づくプログラム「沖縄週間／沖縄の旅」を毎年実施中。2009年の開催に向けて準備を進める。さらに、全国青年大会2008において多くの青年たちが訪ね、心を動かされた働

き「辺野古への新基地建設阻止活動」との連携を深め、主の平和実現のために取り組む。

また、以下の問題を重要な宣教の諸課題として取り上げ、担当者を置いて、調査・研究活動を始め必要な取り組みを行うこととした。

### e. 環境・飢餓・貧困

- ・正義と平和の関連において、課題を調査・研究する所から始める。

### f. 移住労働者

### g. 死刑制度廃止

### h. 天皇制、靖国、教育基本法

- ・憲法第19条「思想及び良心の自由」および憲法第20条「信教の自由」に関わる問題

### i. ステートメント

- j. その他、課題が生じた時に、それぞれ委員長と相談の上進める。

以上

〈まとめ・文責〉

大阪教区 司祭 ペテロ 岩城 聡

## 《文書保管委員会》

### 日本聖公会資料保管に関する協議会の開催について

—東日本地区、西日本地区の協議会を終えて—

文書保管委員会では、このところ毎年秋に各教区、学校、施設、団体などの歴史資料を収集、整理している担当者に声をかけ、その資料、収集方法、整理方法などを自由に情報の交換を目的に協議会を開催している。

2008年10月17日、東京都港区芝公園の東京教区事務所において、東日本地区の協議会が開催された。

集まったのは、北海道教区・下澤昌（歴史文書保管委員長）、東北教区・紺野芳明（歴史委員長）、北関東教区・小野寺達（歴史編纂委員長）、東京教区・前田良彦、倉敷信、

大橋香代子、倉本和（いずれも教区資料保全委員）、横浜教区・春日隆（歴史編纂委員長）、立教大学・山中一弘（立教学院史資料センター課長）、大江満（同センター研究員）、滝乃川学園・中村修（福祉文化室学芸員）、日本聖徒アンデレ同胞会・小笠原汎（本部総務主事）にオブザーバーの中部教区・小林史郎（教区百年史編集委員）、管区・土井宏純（文書保管委員長）、諫山禎一郎（同委員）の計15人であった。

出席者から各自の役割と実状の説明と、質疑応答があり、特筆すべきは東北、横浜両教区の

歴史資料目録が近く完成予定、滝乃川学園百年史が来年六月に完成予定というニュースであった。終りに東京教区資料室の整理状況の説明を受け、見学をして解散となった。

11月7日、大阪市生野区勝山北のプール学院において、西日本地区の協議会が開催された。出席者は、中部教区・野村潔（総主事）、京都教区・藤原健久（総務局長）、大阪教区・山本眞、稲田峰、真鍋倫子、小池宣郎（いずれも歴史編集委員）、神戸教区・與賀田光嗣（歴史編纂委員）、九州教区・小林史明（歴史編集委員長）、壱岐裕志（歴史編集委員）、沖縄教区・棚原恵正（歴史編纂委員長）、山川宗雄（歴史編纂委員）、名古屋柳城短大・村田康常（歴史資料室）平安女学院・竹永基二（法人本部庶務チームリーダー）、プール学院・増成恒哉（中高事務部長）、大八木秀子（元資料室担当）、松岡興二（法人事務局長）、井上進次（チャプレン）、桃山学院・西口忠（史料室職員）、岩男久仁子（史料室調査研究員）、神戸松蔭女子学院大学・浦部育子（校史資料室職員）、神戸国際大学・藤倉哲哉（キリスト教センター長）、聖バルナバ病院・豊川雅章（施設課長）、大江真道（日本聖公会歴史

研究会長）、管区・土居宏純（文書保管委員長）、諫山禎一郎（同委員）の計25人であった。

この協議会も東日本と同様、出席者の役割と実状の説明と、質疑応答があった。

沖縄教区からは、日本聖公会宣教百五十年について、それに先立つベッテルハイム師の琉球伝道の取り扱いについて、いかに考えるかとの発言があった。

大阪教区の戦後五十年史、九州教区の百年史に続く最近三十年史、名古屋柳城短大の百年史、プール学院の百三十年史、聖バルナバ病院の百五十年史など、今後の発行予定が話された。また、教会史の作り方について、諫山が所属する八王子復活教会の百年史の編集事例を基に年史作成を中心に、その編集方法を説明した。

このように東西両地区の集まりを通じて、歴史資料の重要性が認識され、その保管、整理方法を論議できたことを報告する。

管区文書保管委員 諫山禎一郎



### ✧ 渉外主事の報告から

#### バンコク YMCA パヤオセンターを訪ねて

モニカ久野奨学金制度の管理団体としてお付き合いが始まったバンコク YMCA パヤオセンター。先月号で報告したバーンサイ訪問のあと、同じタイ北部にあるパヤオのこのセンターを訪ね、この地域で様々な問題を抱えて生活している人たちの社会復帰と生活環境改善を積極的に進めている現場を見学した。

この地域の村には外国に出稼ぎに行き、様々な事情で帰国した成人（主に女性）とその家族

が多く住んでいる。センターは、外国で売春に関連してしまった人やその家族の社会復帰の支援、また、生活のための資金を稼ぐために人身売買で他人に渡されそうな子どもたちを保護して衣食住を提供し、地域の高等学校にも通わせている。

センターではこのような子どもをおよそ50名預かっていて、大半は高校生だが、10名程度の小学生も預かっている。高学年の高校生が小さな小学生の親代わりをすることもあるようだ。

大部屋の寄宿舎（たしか3棟あったと思う）と大きな食堂があり、メインホールには事務所と図書室、レクリエーションホールなどがある。生徒は週日は学校に行き、帰宅後の時間や週末には

敷地内にある野菜畑や田んぼで作物の世話をしている。自給自足というわけにはいかないが、主食である米は約40%を自給している。

子どもたち全員が集まってきて彼らの話を聞く機会があった。高学年の高校生のひとりは、出身地の村では小学校に教師が派遣されず、きちんとした教育が受けられないので、自分は将来教師の資格を取ってこの様な状況の村の小学校で教えたい、と熱く語ってくれた。また、他の高校生はソーシャルワーカーの資格を取得し、やはり村の子ども達や家族の役に立ちたいと語ってくれた。

センターは通園のモンテッソーリ式の幼稚園を運営している。恐らく教育の一環としての役目だけでなく、センターを支える収入の一部になっているのだろう。

また地域の生活環境改善(Quality of Life Development)のため、食品加工(缶詰・瓶詰め・乾燥果物等)、また縫製、有機農業、養豚、養鶏、「きのこ」栽培、食用昆虫類の養殖技術等を指導している。技術を習得し、組合を形成して共同経営し、現金収入を得ることが目的である。ある農家で聞いた話では、以前は小作農家として大きな農場経営者の下で仕事をしていましたが、収入があるのは収穫時期のみで、それ以外はほとんど借金による自転車操業であったという。しかし、センターの指導を受け有機栽培

に切り替えて多種の野菜を育てることにより、毎日の現金収入が上がる様になって、生活が良くなったと語ってくれた。

海外に出稼ぎに行き、行き詰まって帰国した人たちの社会復帰のプログラムとして、農業や養豚の技術を習得してもらい、マイクロファイナンスで資金を貸し出して事業を始め、資金管理なども教育指導して、長期的な生活環境改善に役立てている。10年以上前に日本での出稼ぎから帰国し、農業と養豚で生計を立てている女性や、クウェートに出稼ぎに行き帰国してから地域の人たち数人と麦わら帽子の縫製をしているという人の話も聞いた。縫製のための工業用ミシンはセンターのマイクロファイナンスにより購入した。

日本各地のYMCAもこのセンターとつながりを持ち、支援をしている。たとえば横浜YMCAは毎年日本の青年を送ってワークキャンプを行っており、青年達はその経験を通して多くのことを学んでいる。

このように地域のために重要な活動をしているバンコクYMCAパヤオセンターの長期的な支援の可能性を今後検討したい。

(管区事務所渉外主事 八幡眞也)

#### ◇お詫びと訂正

『2009年度 教会暦・日課表』にて、18ページ以降、聖書日課・詩編表の下部フッタの部分、**聖書日課・詩編 第2年**となつていますが、**第1年**の誤りです。たいへん申し訳ありません。お詫びして、訂正いたします。